

# れんけい 臨時号

平成30年度  
福島県リーディング起業家創出事業 特集号

平成31年3月20日 発行  
発行 アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局  
〒960-1296  
福島市金谷川1番地(福島大学 地域連携課内)  
電話 (024)548-5295  
メール acf@adb.fukushima-u.ac.jp  
URL http://actfukushima.net/



## 1 リーディング起業家創出事業の概要について

### 福島県リーディング起業家創出事業とは

いま、新しい産業の創造や雇用の創出のために、大学発ベンチャーへの期待が高まっています。しかし、福島県内の大学等による大学発ベンチャーは、年間0件～2件程度と、少ない状況で推移しています。

これを受け、福島県では平成30年度より、アカデミア・コンソーシアムふくしまの加盟大学と共に、起業意欲の醸成、大学発ベンチャーの候補の発掘、事業の立ち上げ支援までを一体的に実施し、そのロールモデルを創出する

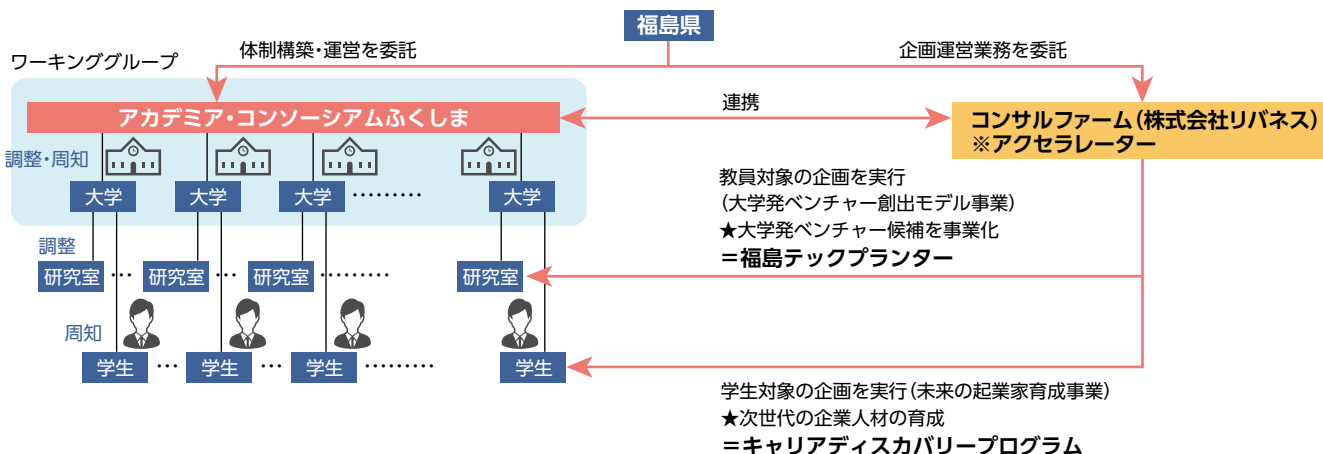
事業(大学発ベンチャー創出モデル事業)を展開しています。

また、こうしたロールモデルにはその担い手が欠かせません。そのため、次世代の起業家人材を輩出するべく、大学在学中に起業意欲を持った学生を育む事業(未来の起業家育成事業)も同時に展開しています。

こうしたことを推進するべく大学発ベンチャー創出エコシステムを形成することを目的としたのが、福島県リーディング起業家創出事業です。

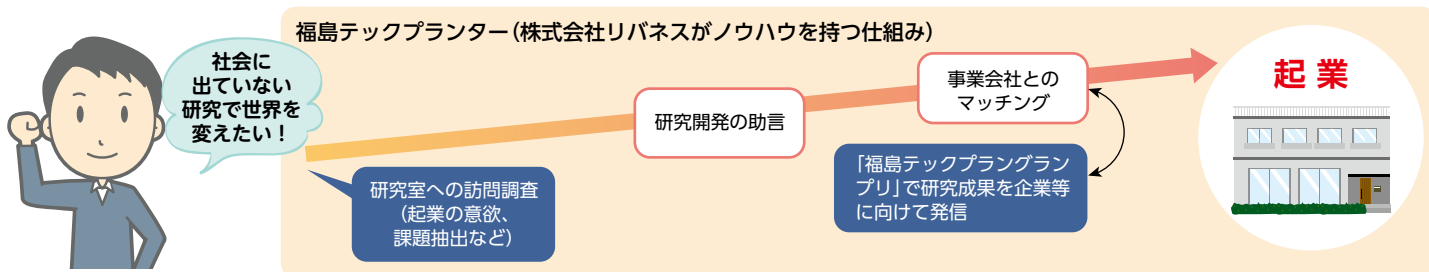
### 取組の推進体制について

大学発ベンチャー創出に向けた、**県内初**の全県的な取組体制を構築しました！

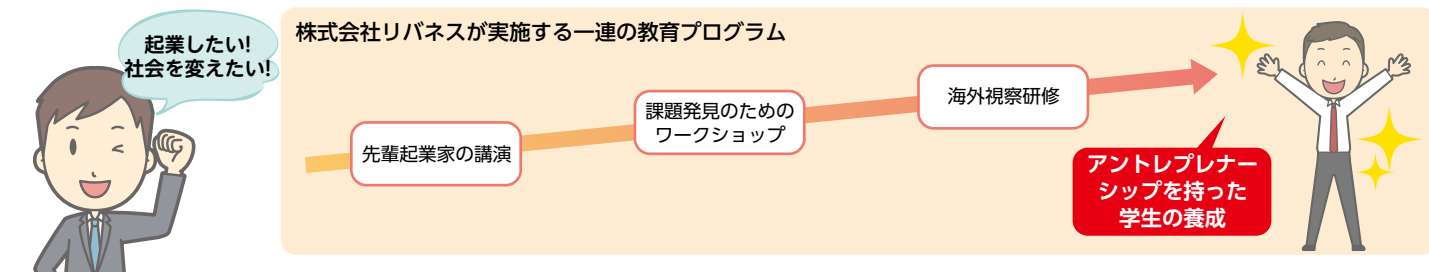


### 取組の概要について

#### ★大学発ベンチャー創出モデル事業[教員対象]



#### ★未来の起業家育成事業[学生対象]



## 2 大学発ベンチャー創出モデル事業について

大学発ベンチャー創出モデル事業は、福島県内の大学等を対象として、ベンチャー候補となる研究成果等を幅広く発掘し、有望な候補となる研究シーズについて伴走型支援や事業会社とのマッチングを行い、**ロールモデルとなる県内大学発ベンチャーの創出を行うこと**を目指す事業です。



### Step 1 デスクトップリサーチ

大学の教員が持つ研究シーズを社会実装するための手段の一つとして、ベンチャーの創出を考えているのがこの事業ですが、すべての研究シーズがベンチャー創出とつながるかといえば、そうではありません。ビジネスモデルが組み立てにくい分野や、市場の想定が難しい分野、社会のニーズが限られる分野などは、この事業においてもどこまでベンチャー創出につながれるかは未知数です。

そこで、高効率なベンチャー創出のために、まずは研究者それぞれが持つ研究シーズを確認するためのデスクトップリサーチを行います。そのために使うのは、各大学等のウェブサイトに掲載された研究者の業績一覧や、各大学等が発刊する研究シーズ集、Researchmapなどのサービスに登録された研究者情報です。この中から社会実装により、世界が変えられる高い可能性を秘めた研究が見つければ、より詳細を確認するために研究論文を探します。このような地道な作業の結果、初年度である平成30年度は95名の研究者が候補としてリストアップされました。

### Step 2 研究者との面談

デスクトップリサーチの結果、その研究シーズが社会実装されれば世界が変わるのに…という候補の研究者が福島県内で多く見つかりましたが、この研究者が研究シーズの社会実装をどのタイミングで行いたいのか、また企業とのパートナーシップを前提に行いたいのかということを確認していく必要があります。そこで、候補の研究者それぞれに対し社会実装の意向があるかどうかをお尋ねし、望んでいる研究者との面談を行いました。

伴走型  
支援の例

研究シーズの伝え方の工夫などに関するブラッシュアップのお手伝い

### Step 3 研究者と事業会社のマッチング

研究の社会実装のために起業をするときの主体は、必ずしも研究者自らである必要はありません。既存の研究シーズを社会実装してくれる事業会社との協働により、新事業を開始するという道もあります。そのようなことを念頭において、事業会社とのマッチングを目指すビジネスプランコンテスト(福島テックプラングランプリ)を開催しました。

## NEWS

### 福島テックプラングランプリを初めて開催しました！

平成31年2月9日(土)、福島市のコラッセふくしまにて、大学が持つ研究シーズと企業のマッチングを目指す「福島テックプラングランプリ」が初めて行われました。

これはこのニューズレターで紹介している福島県リーディング起業家創出事業の一環で行われたもので、県内各大学等の教員が持つ研究シーズの中から、企業との協働により社会実装できるものを7分間という短い時間でプレゼンテーションし、それを企業が審査するものです。

福島県内では初めての開催ですが、アカデミア・コンソーシアムふくしまと協働し事業を実施する株式会社リバネスが全国的に同様の取組を各所で展開しており、今回はいわばその福島県版の取組として今般の初開催に至りました。

当日は県内大学等の教員が中心となった9組のファイナリストが登場、発表し、右記のとおり最優秀賞、各企業賞が決まりました。



▲プレゼンテーションの様子 (photo by 漆原未代)



▲最終選考会のプレゼンター (photo by 漆原未代)

### 《平成30年度大会 最終選考会プレゼンター》

- Cycle Recorder 【代表】高梨 宏之 (日本大学工学部)
- みえるプロセスエンジニアリング 【代表】車田 研一 (福島工業高等専門学校)
- KANA界面ラボ ☆ACSL賞 ☆TBM賞 【代表】金澤 等
- 福島ウッドパワー ☆日本ユニシス賞 【代表】大橋 弘範 (福島大学)
- 薬用植物食品 ☆リバネス賞 【代表】伊藤 徳家 (奥羽大学)
- とまとくらぶ ★最優秀賞 ☆クレハ賞 ☆DNP賞 【代表】内田 修司 (福島工業高等専門学校)
- オーラルハピネス 【代表】大島 光宏 (奥羽大学)
- エースパイオアナリシス株式会社 ☆リアルテックファンド賞 【代表】志村 清仁 (福島県立医科大学)
- 酵素エクスプローラー研究所 ☆NOK賞 【代表】杉森 大助 (福島大学)

## 3 未来の起業家育成事業について

未来の起業家育成事業で実施する「キャリアディスカバリープログラム」は、福島県内の大学等に在学する学生を幅広く対象とし、地域社会等の課題に対する解決策を考えるワークショップを開催したり、シリコンバレー視察等を実施することで、学生の起業家マインドを醸成し、未来の起業家人材の層を拡大することを目指す事業です。

### Step 1 キャリアディスカバリーセミナー

先輩アントレプレナーの講演を学生が聞く機会を設け、学生各々のキャリア観を広げることが目的に、県内4会場でセミナーを実施しました。このときの講師は下記のとおりです。

- 【福島会場】柴藤 亮介氏(アカデミスト株式会社 代表取締役CEO)
- 【郡山会場】渡邊 汗氏(株式会社チャレナジー チーフエンジニア)
- 【会津会場】高橋 修一郎氏(株式会社リバナス 代表取締役社長COO)
- 【いわき会場】水本 武志氏(ハイラブル株式会社 代表取締役)

### Step 2 ワorkshop(1日目)でアイデアをまとめる!

キャリアディスカバリーセミナーに参加した学生のうち、このセミナーの趣旨に賛同し、シリコンバレーに赴いて現地で自分のアイデアや実現したい世界をプレゼンテーションすることを目指す学生を対象に、そのアイデアを整理し考えていくためのワークショップを実施しました。

### Step 3 ワorkshop(2日目)でブラッシュアップ!

1回目のワークショップの参加者から選抜をし、9名の学生を対象にプレゼンテーションの内容の高度化を図るワークショップを実施しました。

### Step 4 シリコンバレー視察研修本番!

世界のアントレプレナーたちが集うシリコンバレーという本場で、ここまで各々の学生が作り上げてきたプレゼンテーションを、現地の企業関係者を対象に行い、フィードバックとして鋭くも温かなご意見をいただきました。



## NEWS

### シリコンバレー視察研修を実施しました!

未来の起業家育成事業の集大成として、平成31年2月17日から22日にかけて、大学1年生~4年生(福島大学、日本大学工学部、福島工業高等専門学校)計9人がアメリカのサンフランシスコやサンノゼといったシリコンバレーへ赴く研修に参加しました!

内容の多くの部分は、シリコンバレーのベンチャー企業の経営者や支援を行う組織体、日系企業の関係者などに対し英語で学生のビジネスアイデアをプレゼンテーションするというものでした。その発表時間も1人あたり1分から5分と、かなり短い時間です。その限られた時間の中で、伝えたいことをなるべく多く、要領よくコンパクトに伝えるために、

学生たちは力を試されました。

合計6社でのプレゼンテーションにチャレンジした学生たち。世界の最先端のビジネスの担い手をオーディエンスにするという、大きなチャンス。現地の企業からは、時には既存サービスとの明確化ができていない部分や、市場を想定しきれていない部分など厳しい意見をフィードバックとしていただくときがありましたが、そこから多くのことを学んだことは間違いありません。彼らは移動時間も寸暇を惜しみ、次の訪問先でのプレゼンテーションへ向け修正を繰り返していました。

### 参加した学生の感想

#### 福島大学1年 小貫 和音

今回参加して、沢山の経験をさせていただきました。

社会に対してもっとこうだったらいいのに、こんなツールあればいいのにと考えることが出来る大学生は沢山いると思います。しかし、それらを現実的に考え、自分でやるなら?と置き換え、プランを立てられる大学生は多くはないと思います。まして、それを世界の前線で活躍している方にプレゼンしてコメントを貰えるなんて、普通ではできないことです。加えて、沢山のサポートもいただける。これ以上恵まれたものはないとおもいます。

今回、この研修に参加出来て何が足りないのか、これからのモチベーションなど先に繋げることができました。ここからは自分が1歩前に出て行動していけると思います。ありがとうございました。

#### 日本大学工学部4年 石川 恒平

起業に興味があり独学していたところに募集があって参加してみたところ、ビジネスピッチをしてからのフィードバックでは、本に書いてあったことと同じようなアドバイスをしてくれたので、勉強していることと現場には違いないことを身を以て体験して安心しました。

研修で最も印象的だったのは、現地でしか得られない体験です。Uberや3Dプリンタで作られたものやweworkの中での体験は新鮮で、新しいものか世の中に浸透していることを実感できて感動しました。

## 平成30年度シリコンバレー視察研修の日程

DAY 1 2月17日(日)



福島県内の主要駅から、成田空港へ移動!初めての国際線という学生も多く、空港内や飛行機の中のすべてが緊張です。現地と日本の時差は-17時間。この大きな時差への対策で、サンフランシスコの文化を視察するところから現地での行動が始まりました。



DAY 2 2月18日(月)



いよいよ本格的に始まったシリコンバレー視察研修。初日は、先輩アントレプレナーが起業したMEKONOS IncとTwo Pore Guysのお話をお聞きし、初めてのプレゼンテーション&フィードバックとなりました。自信と不安の入り交じる気持ちで挑んで、想像よりもシビアな空気を実感した初日でした。



DAY 3 2月19日(火)



前日にいただいたフィードバックを経て、プレゼンテーションをブラッシュアップして挑む3日目。この日の訪問先はSingularity UniversityとPlug and Play Tech Center。Singularity Universityのある場所がNASAのエイムズ研究センター内ということもあり、あちこちに見えるNASAの文字に大興奮!



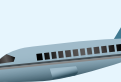
DAY 4 2月20日(水)



最終日は日本語のわかる現地の人たちにプレゼンテーションをするほか、泣いても笑っても最終日なので、徹夜で準備をする学生もちらほら。SAP Silicon Valley、スタンフォード大学、Sompo Digital Labの3か所を訪問しました。



DAY 5 2月21日(木)



あっという間のシリコンバレーの滞在も終え、午前中に出発する飛行機で日本に帰ります。今回はなんとサンフランシスコ国際空港を出発する時間が2時間遅れ、成田空港から先のことがちょっと心配です。

DAY 6 2月22日(金)

成田空港にも無事に到着し、その先も円滑に予定どおりに乗り継ぎができ、新幹線にも無事に間に合いました。あっという間の6日間、本当にお疲れさまでした!

## 平成30年度シリコンバレー視察研修の参加者から後輩たちへ!

福島大学4年 菅原 千遥

本気で何かやること、それは本当に充実していて自分の中に残るものとなります。大学生として時間を持って余し、友達といて楽しいけどどこか充実感がなくて。社会に出る前の期間として、自分はこのままで大丈夫なのかな、と考えることもありました。

そのときにこのシリコンバレー研修に出会いました。ここで一歩踏み出すことによって、学んだことは本当に大きなものでした。さまざまな価値観、考え方に触れることによって、自分のふわふわしていたアイデアがどんどんビジネスのかたちに変化していき、ワクワクの連続でした。

ただ、英語で自分の思いを最大にすることは本当に難しく、1番苦戦しました。短い時間で伝えたいポイントを抜き出して端的にまとめる力はこの研修内で身についた力の1つです。

是非みなさんも一歩踏み出してみてください。

福島大学3年 藤田 陽

仕事を楽しんでいる大人がいる。シリコンバレーはまさにそのような場所でした。私は、物事を楽しんでいる人や一生懸命何かをしている人に強く惹かれます。だからこそ、シリコンバレーに強く惹かれたと感じています。

ただ、日本では一生懸命何かに取り組む人に対して「意識高いね」という人がたまにいます。そのため、一生懸命取り組む人がいつかマイノリティになってしまいがちです。一方、シリコンバレーの場合、むしろ意識の高い人しかいませんでした。そこが、日本との大きな違いなのではないかと感じました。

なぜ、シリコンバレーではそのような環境が生まれ出されているのでしょうか?それを知りたい人は、一歩踏み出してみてください。

## リーディング起業家創出事業についてのお問合せは…

リーディング起業家創出事業に関する詳細については、下記のアカデミア・コンソーシアムふくしま事務局までお気軽にお尋ねください。



アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局

(福島大学 地域連携課内)

業務時間 平日 8:30~17:15 (12:15~13:15は昼休み)

〒960-1296 福島市金谷川1番地  
国立大学法人福島大学地域連携課内  
電話: (024) 548-5295 Fax: (024) 548-5296  
E-mail: acf@adb.fukushima-u.ac.jp  
URL: http://acfukushima.net/